

ちよつぷい話

第一六五号

相互扶助

浄瑠璃等の「壺坂靈驗記」に名文句あり 妻は夫を勞わりつゝ、夫は妻を慕いつつ・・・と唄われます。こういう夫婦関係は現在では共働きが多くなり、時代にそぐわなくなっ
てしまいました。 **我ありて妻あり、妻ありて我あり** という相互扶助の姿なら如何で
しょうか。①の運び次第で問題は解決できるでしょう。 **佛の教えに佛心とは人間が共に
生きて行く為**に他の人々の苦悩、痛みを感じ、 **共に解決に向け身を惜しまない事**だそう
です。道詠に 手を取りて共に泣かなん泣く人の痛む心に心合わせて」とあります。
共生きの生活をしていても不慮の事故を招き母子家庭や父子家庭になるのはやもえま
せんが、共に誓いし信頼を裏切る離婚は頂けません。夫婦の問題に、国家が関与する必
要はありません。全て覚悟の離婚であると思うからです。人間、目は見えても見間違い、
耳は聞こえても聞き間違いがあります。佛の教えに六識あり 眼・耳・鼻・舌・身・意」
ですが、それぞれが正常に働けば良いのですが、上五つで失敗するから、最後を受け持
つ意志決定に於いて間違いを起す事に成るのでしょう。人間の行動は昔から一寸先は闇
と言われています。私達が色々な問題を起すのは佛に対する気持ちの欠如が原因の一つだ
と思っています。佛に見守られての生活こそ安心安全なのではないかと思えます。壺坂
靈驗記」はお里、沢市夫婦が巻き起こす物語です。物語は、お里が沢市の目を治そうと
壺坂寺の観音様に願掛け詣での毎日、それを沢市がお里の浮気と勘違いしたのが事の始
まりです。最後は観音様の御利益で目出度しめでたし。物事は良き方に思いを巡らして
いきます。それこそ心の運びが相互扶助の働きを促すものだと思えます。おじい
ちゃん、おばあちゃん、おとうさん、おかあさん、そして子供達がいる。家庭の中心は
とうさん、おかあさんでしょう。一家を構築していく責任を果たして円満なる家庭生活
を営んで頂きたいのです。家族の和合は大きな力をもたらします。

**残すところ 一か月です。当山の行事では恒例の 伊勢神宮参拝」が残っていますが、
想定外も無く全ての行事を遂行できます事、御礼感謝の一言です。** 私的には笑って終わ
れるか、泣いて締める事になるかまだ分かりませんが、年頭に掲げた目標の達成に向か
って頑張っています。皆様は如何ですか。人生を右よし、左よし、後方よし、前方よし、
上よし、下よし、まさに信心快樂にして禪定に入るが如く、山を眺めるもよし、山から
眺めるもよし、時に応じて自分の裁量に随い道理、義理をわきまえ人としての道を歩み
ましよう。まごころをこめてならいし業のみは年を経れども忘れざりけり 明治天皇

二十五年十一月一日

善壽界善入院油掛地藏尊